

アジア土木学協会連合協議会(ACECC) 理事会、ならびに第5回アジア土木技術国際 会議参加報告

ACECC 担当委員会委員長
堀越 研一 (大成建設(株))

2010年8月8日～11日、アジア土木学協会連合協議会(ACECC: Asian Civil Engineering Coordinating Council)の第19回理事会、ならびに、第5回アジア土木技術国際会議(5th CECAR: Civil Engineering Conference in the Asian Region)がオーストラリアのシドニーにて開催された。

CECARは、ACECC主催のもと、3年に一度開催される国際会議であり、各学協会会長のみならず、産官学の主要メンバーが一堂に会する一大イベントである。前回第4回に2007年に台北で開催し、1000人を超える技術者が世界中から集まっている。

ACECC第19回理事会

ACECC理事会は、ACECCにおける最高議決機関であり1年に1～2回の頻度で各メンバー国もちまわりで開催されている。第19回理事会は、5th CECAR直前の8月8日に開催され、土木学会からは

ACECC担当委員会委員長の堀越に加え、阪田憲次土木学会会長、古田均国際委員会委員長、住吉幸彦ACECC代表、古木守靖土木学会専務理事ら、ACECCや土木学会国際部門にかかわる多数の関係者が参加した。

第19回理事会での最大の審議事項は、現在、CECAR開催国による持ち回りで、3年ごとに受け継がれているACECC事務局の常設化である。事務局常設化の必要性は、前回理事会(2010年2月開催)でほぼ合意に達している。常設事務局の受け入れに関しては、土木学会のみならず、ASCE(米国)、KSCE(韓国)、PICC(フィリピン)の4ヶ国のメンバーが招致の希望を表明している。今回の理事会では、招致希望国に対する基本方針を確認するとともに、次回、第6回CECAR(2013年インドネシアで開催)後からの正式運営を目指し、ACECC定款を改正したうえで、最終的な常設事務局設置国を決定することと

なった。ACECC常設事務局を日本の土木学会に招致することは、アジア域内の社会資本整備に関して日本のプレゼンスを高めるうえで非常に意義のあることであり、土木学会、ひいては日本の建設産業の国際戦略を勘案しながら産官学一体となって招致を目指すべきであると考えている。

会長会議

CECARにはACECC加盟学協会の会長が一堂に会することから、この機会を利用して、会長会議(Presidential Meeting)を開催している。今回は、前回大会(4th CECAR)で決議された「台北宣言」を引き継ぎ、各会長らの議論を経て「持続可能社会の推進」を内容とする共同声明を発表した(共同声明の内容はACECC担当委員会のホームページを参照いただきたい)。



写真1 開会式の様子(ニューサウスウェルズ州Marie Bashir州知事によるスピーチ)

第5回アジア土木技術国際会議 (5th CECAR)

今回の5th CECARは、オーストラリア構造

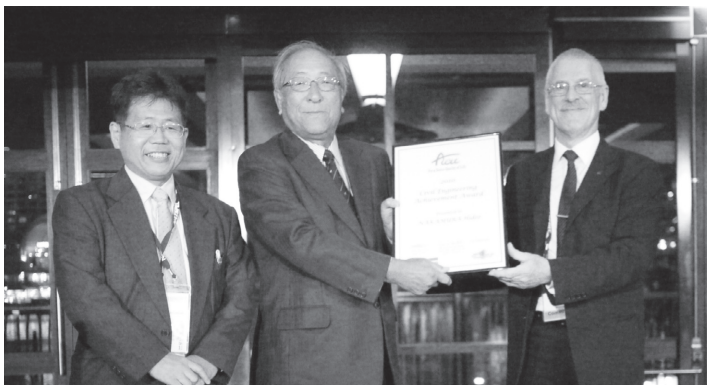


写真2 ACECC Civil Engineering Achievement AWARD を受賞した中村英夫氏(中央)

工学会議(ASECC: Australasian Structural Engineering Conference)との併設開催となった。会議のテーマは「Innovative Community Building(革新的な社会の構築)」であり、会議への最終登録者数は603名であった。

開会式

開会式では、5th ACECCAR組織委員会委員長、ACECC会長および各学会会長が壇上に並び、開催地シドニーが属するオーストラリアニューサウスウェルズ州の知事(Governor)であるMarie Bashir教授を、オーストラリア国家斉唱のもとに迎え、格式高く行われた。また今回はACECC設立10周年をむかえての開催でもあることから、初代ACECC会長

である岡田宏氏のメッセージが伝えられ、その後、Governorの演説、ACECC会長のPaul Mitchell氏の演説が行われた。

論文発表、基調講演、スペシャルフォーラム

5th ACECCARに投稿された全論文数は、ASECCへの投稿分と合わせて300件を超えた。このうち、土木学会からの投稿は58件で、ACECCメンバー国の中ではオーストラリアに次ぐ論文数となった。また、CECCARに合わせて、ACECC参加学協会、各1人ずつの卒の学生論文が募集され、土木学会では東京大学大学院の酒井雄也氏の論文が選定され、一般セッションの場で発表が行われた。

基調講演は、イギリスのRoger Plank教授による「欧州における構造工学の現状」、台湾のJenn-Chuan Chern教授による「台湾におけるモラコット台風の復興戦略」、オーストラリアのIan Firth氏による「メルボルン、West Gate橋の補強と機能向上」の3題であった。また一般セッションは、七つのトラックに分かれるパラレルセッション方式で進められた。特に「Sustainable Infrastructure(持続可能な社会資本)に関するセッション」では、各学会長からの発表が行われ、阪田憲次会長が「Concrete Technology in the Era of Global Warming」と題した講演を行った。

スペシャルフォーラムは、土木学会が担当する「アジア域内の設計基準の調和に関する技術委員会(TC)」が主体となって開催した。同技術委員会は、前回の台湾大会の際のACECC理事会にて設立が認められたも

のである。委員長は本城勇介岐阜大学教授、幹事を筆者が務めている。3年間の活動の中で、設計基準の調和に関するワークショップを3回(台北、仙台、ハノイ)、CECCARでの特別フォーラムを2回(台北、今回のシドニー)開催し、これまでの活動を通して、ACECCメンバー国内での設計基準にかかわる情報共有、人的ネットワークの構築、性能設計にかかわる用語集の普及などにつとめてきた。同TCとしては、今回のフォーラムで活動を終えるが、土木学会としては、引き続きアジア域内の設計基準にかかわる情報共有に努めること、支援の要望があった場合にはACECCを母体としながら、それぞれのニーズにあった支援を続けること、などの意思表示を行った。

ACECC賞の表彰

ACECCでは、3年に一度のCECCARの機会を利用して、アジア域内、ひいては世界の土木技術の発展に貢献のあった個人、ならびにプロジェクトに対し表彰している。個人に対しは、「ACECC Civil Engineering Achievement Award」が授与され、中村英夫氏(東京都大学学長)、台湾のJenn-Chuan Chern氏、韓国のKuang-Ji Kim氏の3名が受賞した。またプロジェクトに関しては、台湾高速鉄道(新幹線)が最高位の「Outstanding Civil Engineering Project Award」に続き、韓国(Sincheon Bridge)、日本(Bali Beach Conservation Project)、インド(Delhi Metro Rail Project)が「Civil Engineering Project Award」を受賞した。

ACECC加盟国が10を超え、その活動が活発化するにつれて、ACECC担当委員会の活動、ならびにCECCARに向けた準備作業も多忙を極めた。ACECC担当委員会幹事団、特に山口栄輝副委員長(九州工業大学)、鳥居雅之幹事長(西松建設)、飯島健幹事(前田建設工業)、中野雅章幹事(日本工営)をはじめ、関係各位のご尽力ご協力により、土木学会としてのリーダーシップをとるべく、十分な貢献を示すことができたと考えている。あらためて関係各位に厚く感謝の意を表する次第である。また、5th CECCARの開催に向けて協賛金を拠出いただいた建設コンサルタンツ協会、ならびに、大林組、鹿島建設、清水建設、大成建設の建設各社に厚く感謝の意を表する。あわせて、同会議に論文を投稿し発表していただきました方々、学生論文コンテストに応募された学生諸氏、ACECC賞に応募してくださった方々に感謝の意を表する。

なお、次回第6回アジア土木技術国際会議は、2013年8月20日〜23日にインドネシアのジャカルタにて開催される予定である。ACECC担当委員会としても、日本の建設産業、そして土木学会が、世界の中のプレゼンスをさらに高めるべく最善を尽くす所存である。今後ともご支援をお願いしたい。